

第1弾「ネクストリーダー育成ワークショップ事業」募集要領

1. はじめに

『IoT、ビッグデータ、AI など最新技術がものづくりにどう影響するのかわからない』、また『技術系人材確保が難しく、次のリーダー人材が育っていないのでどうにかしたい』といった意見を企業の方から多く聞きます。しかしながら、最新技術を学ぶだけでは対応は難しく、本質的には、そのような技術や物事に幅広い視点から考え・整理できる人材が必要です。

「ネクストリーダー育成ワークショップ」は、IoT、ビッグデータ、AI など、ものづくりに影響を与える最新技術を題材に、グループディスカッションや発表を通じて「幅広い視点から考え・整理できる力」を身につけることを目的としています。講演を通じて、最新技術の基礎や活用事例を学ぶとともに、業種やバックグラウンドが異なる参加者間でディスカッションすることにより、違うものの見方や異なる発想に触れ、自身の視野を広げることを目指します。

また、講師には、各分野で活躍する第一線の方々をお迎えし、技術の基礎から応用事例、今後広がるビジネスの可能性などをレクチャーいただきます。さらに、大阪大学 CO デザインセンターの池田副センター長にファシリテータを務めて頂き、グループディスカッションや発表など、ワークショップを効果的にすすめるようにデザインしていただきます。

2. ワークショップで得られるもの

仕掛け	育成する能力
<ul style="list-style-type: none">最新技術等、注目されている技術に関する講演の受講	<ul style="list-style-type: none">基礎的な知識・知見の習得
<ul style="list-style-type: none">講演の受講だけでなく、講演内容を題材とした少人数グループに分かれてのディスカッションに重点を置く	<ul style="list-style-type: none">自分の意見を発信する能力バックグラウンドの異なる他業種からの参加者からの意見を聞くことによる視野の拡大（交流のない他業種の参加者との交流）ディスカッションを通じて内容のより深い理解
<ul style="list-style-type: none">グループ毎にディスカッション結果を発表発表内容に対する講師、ファシリテータからのフィードバック	<ul style="list-style-type: none">議論した内容をまとめる能力プレゼンテーション能力ファシリテーション能力自分たちのディスカッション結果と他のグループの結果との比較により、欠けていた視点の気づき

技術（物事）に対して幅広い視点から考え・整理できる人材を育成します。

2. ワークショップの概要

2.1 実施時期・実施回数・実施場所

[実施時期・回数] 平成29年5月～9月に、計5回実施

[実施場所] 大阪科学技術センター会議室 [大阪市西区靱本町1-8-4]

	日程・場所	テーマ
第1回	5月25日(木) 11:00-19:00 [8F 小ホール]	・IoT/Big Data/AI/Industrie4.0の理解のために -業務プロセスのIoT化と産業構造の変化- [終了後、交流会 有]
第2回	6月28日(水) 13:00-18:00 [6F 600号室]	・データ活用で競争優位を生み出す ～知識を発見し未来を予測する～
第3回	7月25日(火) 13:00-18:00 [6F 600号室]	・IoT、ビッグデータ解析、AI技術に基づく高効率営農法
第4回	9月6日(水) 13:00-18:00 [6F 600号室]	・ブロックチェーンの分類論とビジネスへの応用可能性
第5回	9月26日(火) 13:00-19:00 [7F 700号室]	(最終報告会) *各自発表 ・関西を元気にする将来のモノづくり企業 [終了後、交流会 有]

2.2 実施内容

- ・オリエンテーション(ワークショップの進め方、ファシリテーションの基本等)
- ・講演(各分野の有識者を招き、技術動向、今後の方向性、活用事例等をレクチャー)
- ・グループディスカッション、発表(講演で得た基礎知識と活用事例をふまえ、設定したテーマ毎にグループディスカッションを行い、意見をまとめて発表)

*後述の「2.5 各回のテーマと講師」、「2.6 各回のスケジュール」も合わせて参照下さい。

2.3 参加対象者と募集人数

参加募集を締め切りました

- ・対象者:主に若手、中堅社員(本ワークショップへの参加がふさわしいと思われる方)
- ・募集人数:30名(定員に達し次第〳切)

2.4 参加費(税抜き)

- ・賛助会員:10万円/名
- ・非賛助会員:15万円/名

*参加お申し込み後、受講票・請求書を送付いたします。

*受講者の会場への往復交通費及び交流会参加費(2,000円程度)は、ご負担下さい。

2.5 各回のテーマと講師

第 1 回	<div style="text-align: center; background-color: #f2f2f2; padding: 5px;">講演テーマ</div> <p style="text-align: center;"> ・IoT/Big Data/AI/Industrie4.0 の理解のために ～業務プロセスのIoT化と産業構造の変化～ 近畿総合通信局 局長 関 啓一郎 氏 </p> <p>(講演概要) 現在、われわれの世界で何が起きているのかを理解した上で、IoT・ビッグデータ・AI等の基礎と先進事例を学ぶとともに、インダストリー4.0/IoTによる産業構造の変化と課題への対応について考えます。</p> <p> 今世界で何が起きているのか 情報通信インフラ・技術の発展 IoTの先進事例 政府の取組み インダストリー4.0/IoTによる産業構造変化、課題への対応 </p> <div style="border: 1px solid #ccc; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>～講師略歴～</p> <p> 東京大学法学部卒 郵政事務次官秘書、国際経済研究所ワシントン事務所長、郵政省マルチメディア振興室長、内閣官房副長官補付内閣参事官（IT戦略担当）、総務省国際経済課長、固定資産税課長、内閣官房情報セキュリティセンター（NISC）総括担当参事官、四国総合通信局長、愛媛大学客員教授、東京大学公共政策大学院教授、野村総合研究所 未来創発センター主席研究員等を経て現職。2003年「e-Japan戦略Ⅱ」、2008年「第二次情報セキュリティ基本計画」の策定に携わった。 </p> </div>
	第 2 回

講演テーマ

・IoT、ビッグデータ解析、AI 技術に基づく高効率営農法 佐賀大学 工学部知能情報システム学科 特任教授 新井 康平 氏

(講演概要)

第4次産業革命における基盤技術のAIやIoT、ビッグデータ解析、ロボットを農業分野で活用する“スマート農業”の実現を目指し、新たな価値を創出することが農産を中心に推進されています。人工衛星、ドローン、地上設置センサ(IoT)を活用した茶及び米の品質評価、収量予測、病害虫対策等の営農に不可欠な課題に取り組み、成果を上げてきた講演者が研究成果・事業の取り組みを紹介し、新たな価値創出の可能性を探ります。

第
3
回

営農に必要なIoTとは
衛星の恵みうれしの茶誕生秘話
コメの品質、収量、病害虫予測
ドローン技術の最新情報
IoT、ドローンによる加害獣検知

～講師略歴～

日本大学大学院理工学研究科修了、工学博士
日本電信電話公社電気通信研究所、東京大学生産技術研究所、宇宙開発事業団、
佐賀大学情報処理センター長、科学技術庁航空電子等技術審議会委員、米国アリゾナ
大学客員教授(現任)、佐賀大学学長特別補佐、科学技術共同開発センター長、評議員、
海洋エネルギー研究センター教授、国際学術連合宇宙研究委員会表彰委員(現任)、
コミッションA副議長、低平地沿岸海域研究センター副センター長等を経て、現職。
日本学術会議連携会員(現任)他、国内外の非常勤講師も多数務める。
平成26年に文部科学大臣表彰受賞、平成28年に国際学術会議ICSU/宇宙空間研究委員会
COSPAR 受賞、その他受賞歴多数。

・ブロックチェーンの分類論とビジネスへの応用可能性 国立情報学研究所 情報社会相関研究系 准教授 岡田 仁志 氏

(講演概要)

ブロックチェーンは未定義の技術である。昨今、ブロックチェーン技術の応用に関する議論がなされているが、多くの場合、ブロックチェーンという用語の指す内容は曖昧である。そこで、ブロックチェーンの分類に関する議論を概観し、広義または狭義のブロックチェーンの指す内容を可及的に正確に理解する。次に、狭義または広義のブロックチェーンの応用可能性と問題点について、狭義または広義それぞれの性質に応じて考察し、ブロックチェーンが解決しようとする問題、及び解決できない問題の区別についてディスカッションする。

第
4
回

ブロックチェーンの定義と分類論
狭義/広義のブロックチェーンが備える性質
狭義/広義のブロックチェーンの応用可能性と課題

～講師略歴～

1965年大阪府生まれ。1988年東京大学法学部第一類卒、89年同第二類卒。
大阪大学大学院国際公共政策研究科博士後期課程中退。同個人金融サービス寄附講座助手を
経て、2000年国立情報学研究所助教授。2007年より現職。総合研究大学院大学複合科学
研究科情報学専攻准教授(併任)。総務省情報通信政策研究所特別上級研究員。ISO TC68
SC7 Study Group on Digital Currencies エキスパート。博士(国際公共政策)。1990年
代後半から世界各地の電子マネーをフィールド調査する。電子マネーとの比較において、仮
想通貨の政策的課題について考察する。電子情報通信学会 技術と社会・倫理研究会
(SITE) 副委員長、米国電気電子学会(IEEE) 技術の社会との関わり合いソサイエティ日
本チャプター(SSITJ) Vice Chair を務める。

第5回	<p>・ 最終報告会「将来のモノづくり企業」</p> <p>関西を元気にする将来のものづくり企業について、実現性を問わず、理想やありたい姿などグループ毎にテーマを決めて発表いただきます。</p> <p>また、最後には、本ワークショップに参加した感想を各自から発表いただきます。</p>
------------	---

<p>ファシリテータについて：</p> <p>池田 光穂 氏（大阪大学 CO デザインセンター 教授・副センター長）</p> <p>最終学歴：大阪大学 大学院医学研究科 博士課程単位取得済退学</p> <p>職歴：1992.4 東日本学園大学（北海道医療大学）教養部助教授</p> <p>2002.10 熊本大学 文学部教授（文化表象学）</p> <p>2005.4 大阪大学 コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）教授</p> <p>2015.8 大阪大学 CSCD 教授・センター長（～2016.6）</p> <p>2016.7 大阪大学 CO デザインセンター 教授・副センター長（現在に至る）</p> <p>専門：中央アメリカの民族誌学と医療人類学。CSCD では、専門的知識をもつ者ともたない者 の間、利害や立場の異なる人々をつなぐコミュニケーションの回路の構想・設計・実践 を目指して、「現場力」をテーマに、「対話重視」で各種取組みを展開。</p>
--

2.6 各回の基本的なスケジュール

第1回	実施項目	講師
11:00	オリエンテーション	ファシリテータ
12:00	昼食（弁当を事務局で準備）	昼食をとりながら自己紹介
13:00	講演会	講演者・（ファシリテータ）
15:00	ディスカッション（1） *ディスカッション結果の発表を含む	ファシリテータ
16:30	ディスカッション（2）	ファシリテータ
18:00	交流会	
19:00	終了	

第2～4回	実施項目	講師
13:00	講演会	講演者・（ファシリテータ）
14:30	ディスカッション（1） （含、チェックイン・前回振り返り）	（講演者）・ファシリテータ
16:30	ディスカッション（2）	（講演者）・ファシリテータ
18:00	終了	

第5回	実施項目	講師
13:00	最終報告に向けての グループディスカッション	ファシリテータ
15:00	最終報告（プレゼンテーション）	ファシリテータ、 企業の経営者等
17:30	修了式	修了証、ならびに優秀プレゼン賞授与
18:00	交流会	
19:00	終了	

3. お申し込み方法 参加募集を締め切りました

- 別紙の参加申込書に記入の上、事務局あてに、Eメール、もしくはFAXでお送り下さい。
- 30名の定員となりますので、お早めにお申し込み下さい。
- グループワークの性格上、できるだけ同一の方が5回を通じてご参加ください。

4. 募集期間と受講のご連絡

- 応募締切り：平成29年5月17日（水） *定員に達し次第、締め切ります。
- 受講の連絡：お申込みを受け取り後、事務局からご連絡いたします。

5. 書類提出先およびお問い合わせ先

一般財団法人 大阪科学技術センター 総務部（担当：篠崎）
〒550-0004 大阪府大阪市西区靱本町1-8-4
e-mail: k.shinozaki@ostec.or.jp FAX 番号：06-6443-5319

個人情報の取扱いについて
<ul style="list-style-type: none">• 本ワークショップへのお申込みにあたり、個人情報保護のため、(一財)大阪科学技術センターが、適切に取り扱います。• ご記入頂いた個人情報は、本ワークショップの運営・管理等に関するご連絡及び当財団の関連する事業等のご案内以外には使用致しません。個人情報の取扱いは、当財団の「個人情報保護規程」に従って対応いたします。